

このヒトに
地域活動編 1
聞いてみた

高橋 恵司 さん (67歳)

[地域の卓球クラブで活躍]



タカス・コミュニティで卓球をする高橋さん

いろいろなスポーツを試し卓球へ

退職後に何をやるかと考えていた高橋さん。60代のときには「まずは体を鍛えたほうがいい」と考え、テニスや太極拳、スポーツ吹矢などいろいろ試し、最終的に卓球にたどり着きました。地域のスポーツクラブで卓球をしていましたが、その後は近隣のNPO法人さいたまスポーツクラブでやるようになり、さいたまスポーツクラブが閉鎖になった現在は大宮体育館や大宮武道館、そして地域にある株式会社タカスが運営するコミュニティスペース「タカス・コミュニティ」で卓球を続けています。

勝ったら嬉しいし負けたら悔しいのが勝負事

現在は週に5回くらいは卓球をしているという高橋さん。その魅力は「勝負事で勝ち負けが出る。勝ったら嬉しいし、負けたら悔しい」と話します。さいたま市のシニアの卓球大会に出ることもあるそうですが、さいたま市は卓球人口が多く、なかなか予選を突破できないそうです。「学生時代からやっていた人にはなかなかかなわないし、実業団に入ってい

た人が出てくるとやっぱり勝てない」と話す一方で、高橋さんもさいたまスポーツクラブ主催の大会では準優勝したこともある実力者です。

卓球のもうひとつの魅力は「年をとってもできること」。現在、一緒にやっているメンバーには80歳を超える方もいるそうです。ご自身も「80歳過ぎても卓球をやれば最高だと思う」とも。

軽い気持ちでいろいろなことに足を踏み入れる

今後も卓球は続けていきたいという高橋さん。ただ、「卓球自体は第2の人生を楽しむためのもので、あまりひとつのことに突き詰めるつもりはない」とも言います。

そんな高橋さんにセカンドライフの過ごし方について尋ねると「リタイアしたら何をしたいのか分からない人もいます。私もそうだったが、好奇心を持って面白そうだと思うことはとやまらずやってみることにした。結局続くのは面白いことだけ。仰々しいことを始めるわけではないので、まずは軽い気持ちでいろいろなことに足を踏み入れてみたいと思う」と言います。



高須俊久さん [株式会社タカス 代表取締役社長]

活動先の声

もともとは板金塗装工場でしたが、そこに卓球台を置いたことでシニアが集まる場所になりました。続いているのは近所の人が多く、継続するには近くであることも大切です。スポーツはコミュニケーションをとらなくてはできないので、いつの間にかみんな慣れて友達になっています。

※活動先、年齢は取材当時のものです。

このヒトに
生涯学習編 1
聞いてみた



井藤 初美 さん (71歳)

[シニアユニバーシティパソコンクラブ講師]

ひとり時間が増えたことをきっかけに、さいたま市シニアユニバーシティへ

現在、シニアユニバーシティのクラブ活動のひとつであるパソコンクラブで講師をつとめる井藤さん。もともとは専業主婦で、娘が結婚して家にひとりになる時間が多くなり、友人に勧められてシニアユニバーシティに入学。通常の授業のほかにパ

ソコンクラブに所属して勉強を始めました。

パソコンはいざ始めてみると難しく、最初はあまり楽しくなかったそうです。そんな中で行われたシニアユニバーシティの文化祭のポスター作成で、今までにやったことがない作業をしてそこから面白くなってきたと言います。

そして、もっと学びたい、面白さを広めたいという気持ちから1年の



土谷和栄さん [IT専修科の同級生でまとめ役]

仲間の声

最初はパソコンのスキルも高くなかったですが、分からないと必ず手を挙げて聞きますし、自分が講師の日でなくても積極的に見学に来ます。今では自分よりも教えるのが上手くなっています。あれだけ頑張れば抜き出るのも当然だだと思います。井藤さんを見て一生懸命学べば年齢に関係なく上達することがよく分かります。

※活動先、年齢は取材当時のものです。

一般課程を卒業した後に、パソコンの指導者を養成することを目的としたIT専修科に進み、講師として第一歩を踏み出しました。

パソコン初心者からパソコン講師へ

人前で話す経験がほとんどなかったという井藤さん。一緒に講座を行う経験豊かな講師陣のフォローもあり、講師としての実績を積み、現在ではほぼ毎日講座を行っています。「自分がパソコンができなかったから、できない人の気持ちが分かる」と井藤さん。パソコン講師をして一番うれしいのは「今日はとても分かりやすかった、面白かった」と受講生に言ってもらえるときだそうです。

参加者には「パソコンは楽しみながらやってね」と言っていますが、自分自身でもそう心がけながらやっているのが長く続けられている理由とのことです。

いずれは近所の老人ホームで折り紙をやりたい

「60歳を過ぎたら友達を作るのは難しい。シニアユニバーシティはともいいきっかけになった」と井藤さん。毎日の講座やその準備もあり、忙しい日々を送っています。加えてシニアユニバーシティ卒業生のクラブ活動で趣味の折り紙の講師も行っています。

「いずれ近所の老人ホームなどで折り紙をやりたい」と夢を話しました。



パソコンクラブで指導をする井藤さん

パソコン初心者から、パソコン講師へ

好奇心を持ち、気軽にいろいろなことをやってみる